

マクロファージ活性化能評価 受託サービス

ご依頼の試料を用いてマクロファージを刺激後、各種活性化指標を測定することにより、マクロファージ活性化能を評価します。

NO 産生試験

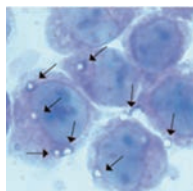
- マクロファージ細胞株 (RAW264.7 や NR8383 など) 培養液中に試料を添加し、24~72 時間後の培養上清を回収します。一酸化窒素 (NO) 産生能として、上清中の亜硝酸量を、グリエス試薬を用いて測定します。
- ご依頼の試料をポリミキシン B (LPS 阻害物質) と混合し、NO 産生能を測定することも可能です。
- 抗炎症効果の 1 つの指標として、LPS と試料を同時に添加して NO 産生を測定し、NO 産生抑制能を評価することも可能です。

サイトカイン産生試験

- マクロファージ細胞株培養液中に試料を添加し、24 時間後に培養上清を回収します。RNA を抽出してサイトカインの遺伝子発現解析を行うか、または市販の ELISA キットを用いてサイトカインを定量します。

貪食活性試験

- マクロファージ細胞株の培養液中に試料を添加し、回収した細胞に蛍光ラテックスビーズを貪食させて、貪食した細胞の割合、貪食した粒子数を測定します。
- ビーズを取り込んだ細胞の検出は、フローサイトメーターで行います。
- オプションでスライドを作製し、細胞写真を撮影することも可能です。



ラテックスビーズの貪食

マウス単球細胞株に蛍光ラテックスビーズを貪食させた後、洗浄し、ギムザ染色をした。
矢印：ビーズ

ご注文方法/価格

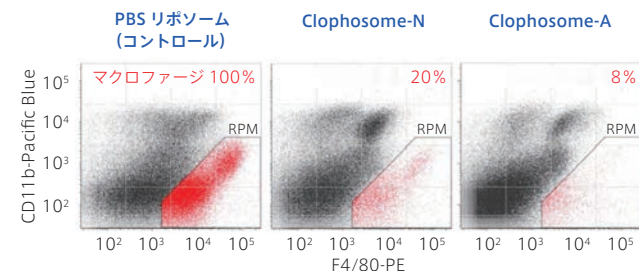
詳細は当社受託・特注品担当までお問い合わせ下さい。

※上記の各試験項目の *in vivo* (マウス) での試験も、条件により対応可能な場合があります。詳しくはご相談下さい。

[メーカー：MPI]

マクロファージの除去に有用な クロドロン酸内包リポソーム

静脈注射により 1 回投与するだけで、脾臓中のマクロファージを 80% 以上除去することができます。



マウスに各種リポソーム (0.1 ml) を静脈注射した 24 時間後に、脾臓中の F4/80^{high} 陽性 CD11b^{low/int} 陽性マクロファージの量を、フローサイトメトリーにより解析した。コントロールのマクロファージ存在量 (赤色領域) を 100% とした時、Clophosome-N 処理では 80%、Clophosome-A 処理では 92% のマクロファージが除去された。

品名	メーカー	商品コード	包装 / 価格 (¥)
Clophosome-N <Clodronate Liposomes, Neutral>			
FMS	F70101C-N		2 ml / 40,000
FMS	F70101C-N		10 ml / 136,000
リポソームの脂質電荷が中性の製品。			
Clophosome-A <Clodronate Liposomes, Anionic>			
FMS	F70101C-A		2 ml / 58,000
FMS	F70101C-A		10 ml / 202,000
リポソームの脂質電荷が負電荷の製品。			

第 52 回 日本免疫学会学術集会

附設展示会に出展します！

会期：2024 年 1 月 17 日 (水) ~ 19 日 (金)

展示会場：幕張メッセ展示ホール 7

テクニカルセミナー開催

演題：人工知能 LIGHTHOUSE による創薬革命

1 月 17 日 (水) 11:45 ~ 12:45

(株)Q イノベーション 取締役・最高技術責任者 (CTO)
東京医科歯科大学・高等研究院 特別栄誉教授

中山 敬一 先生



セミナー参加の事前登録受付中！

※Microsoft Forms のページへ移動します。